

第 8 7 4 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 2 年 6 月 3 0 日 (火) 9 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 第 2 会議室

益田市教育委員会

第 8 7 4 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 2 年 6 月 3 0 日（火） 9 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市役所 第 2 会議室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第 2 1 号 学校医の任命について

報第 2 2 号 令和 2 年度「日本遺産」の認定結果について

報第 2 3 号 工事請負契約の締結について

報第 2 4 号 学校給食における食中毒防止強化期間の取組について

報第 2 5 号 令和 2 年度「益田市の教育の概要」について

報第 2 6 号 第 5 4 1 回益田市議会定例会一般質問について

報第 2 7 号 令和 2 年度益田市一般会計 6 月補正予算について

第 4 その他

(1) 情報提供

- ・しまね教育魅力化ビジョンについて
- ・益田市立歴史民俗資料館施設活用検討委員会における検討状況について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

柳 井 秀 雄
中 野 純
舟 橋 道 恵
村 上 三恵子
梅 津 富美子

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
文 化 財 課 長
社 会 教 育 課 参 事
人権・同和教育推進室長
美 都 分 室 長
匹 見 分 室 長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 主 任

野 村 美 夜 子
大 畑 伸 幸
長 嶺 勝 良
田 原 啓 文
森 脇 達 也
山 本 浩 之
岡 崎 賢 一
石 田 公
中 島 純 子
齋 藤 一 臣
齋 藤 勝 義
中 田 香 織

柳井教育長 ただいまより第874回益田市教育委員会定例会を始めさせていただきます。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 それでは、5日に豊川小学校で島根県立大学とのテレビ会議がありました。これは保・幼・小の連携ということで、これから県立大学の先生方が一緒になって子どもたちの学びを幼稚園、保育園から小学校へスムーズにつなげていくために取り組んでいるものです。

そのほかには、13日から学び舎ますだが始まりました。子どもたちが図書館に集まって自主的に自分の学びをつくっていく、そういった場所として学び舎ますだということを行っております。今年はコロナの関係で、例年に比べたら人数も少ないようでしたが、来た子どもたちは本当に一生懸命に学習して帰っていきました。

次に、15日から17日の一般質問につきましては、この後、部長から報告させていただきます。

19日には、日本遺産認定懸垂幕掲揚式がありました。2年がかりで益田市がこれから取り組んでいこうとする「中世日本の傑作 益田を味わう」が日本遺産に認定されたことは非常に市民にとって喜ばしいことですが、これからはいかにして市民を巻き込んで官民一体となってやっていくかが問われるところですし、市民に対しての意識の高揚、その内容についての発信など、それから国内に向けて集客するためにはいろいろな課題はあるわけですが、これを機に益田というものをしっかり売り込んでいくチャンスになると思っています。以上、簡単ですが、報告させていただきます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

第3 議題

○報第21号 学校医の任命について

柳井教育長 それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

報第21号学校医の任命について、事務局よりお願いします。

田原課長 これまで市教育委員会では、学校関係の特別職といたしまして学校医それから学校歯科医、学校薬剤師を任命してきているところでございますが、

このうちの学校医につきましては、内科医の先生のみ任命となっており
ました。しかし、耳鼻科医、眼科医も同様に学校検診を行っていただい
ている状況であり、この先生方というのは検診のみ行う業務委託といった形
で依頼をしておりました。

この中で、耳鼻科医や眼科医につきましても、内科の先生や歯科医と同
様、学校検診のみならず、各学校からの健康相談や保健関係の指導も行っ
ていただいている状況もあります。

学校保健安全法では、学校医を学校における保健管理に関する専門的事
項に関し技術及び指導に従事すると第23条の4の中で示されておりました。
特に内科医に限定しているというものではありませんでした。事実、
島根県内におきましても、特に東部になりますが、耳鼻科医、眼科医も同
じ学校医という位置づけで任命されているということでした。

今、コロナの関係で検診が延期している状況ではありますが、耳鼻科に
つきましては6月の下旬から学校検診を再開しておりまして、検診を行う
に当たりまして、ゴーグルを付けながら検診を行うなど先生方には細心
の注意を払っていただいている状況です。

そういった状況の中で、先生方への心理的な負担という部分を考慮する
中で、学校医として任命することで非常勤の嘱託員の性格を有する特別職
とみなすような形としまして、公務上の災害に対して一定の保障を受ける
ことが可能となるような形にしたいと考えたことから、4ページの名簿に
記載のある方々について小中学校の学校医に任命しましたので報告いたし
ます。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

○報第22号 令和2年度「日本遺産」の認定結果について

柳井教育長

それでは続いて、報第22号令和2年度「日本遺産」の認定結果につい
てお願いします。

山本課長

既にテレビや新聞等で報道されておりましたので、ご存じのこととは思
いますが、2回目の挑戦で日本遺産認定となりました。本当にありがとう
ございました。

地域型というところで申請をさせてもらっております。このたびはスト
ーリータイトルを「中世日本の傑作」として、「日本」をつけたところが
前回と違う点でございます。

全国の申請件数は69件、それに対して認定が21件だったということ
です。

認定に至った評価については、地域性の追求が重要な今日、大変興味深

く、計画に関しても、まちづくりの方向性と結びついており、評価することができる。中世を体感できるまちづくり、食の再現などの事業化が期待できるという、非常に高い評価を得ることができました。

全国の累計件数は、このたびの認定21件を加えると、全体で104件となります。そのうち、地域型は全国で35件、そしてシリアル型は69件といったところで、シリアル型が圧倒的に多いといった結果となっております。

県内につきましては、今まで5件でございましたので、益田市と大田市それぞれ地域型が2件追加となって、合計で7件となりました。内訳を申しますと、地域型が4件、シリアル型が3件になっております。

地域別に見ていきますと、県の西部が5件となりました。東部が2件です。なので比率としては西部のほうが多くなっております。

今後の予定につきましては、日本遺産認定の周知を継続していきたいと思いますが、既にポスター、パンフレットの配布はしております。さらに、ホームページによって情報発信もしております。また、益田市役所のロビー、雪舟の郷記念館、市立図書館で特設コーナーを設置しております。これらにつきましては継続していただき、あわせて、今後の文化庁の支援制度を活用しまして、情報発信、人材育成、普及啓発、活用のための整備等の事業を官民連携して進めるために積極的に取り組んでいきたいと考えております。

舟橋委員

本当にお疲れさまでした。市長部局とも連携しながらこういう結果が出たのだと思いますが、目に見えない形、私たちに触れないところで一生懸命に一つ一つ積み重ねていかないとできてこない、それは本当に長い間の苦労の積み重ねというところで、日本遺産に認定は本当にありがたく、良かったと思っております。

ただ、これからが大変な時期であるということで、特にこの日本遺産で地域の人たちが一体化してここを支えていかなければ、取り消しという可能性もなきにしもあらずというような話も聞いておりますが、意識をどう持ってもらおうかというところを私たちもできるだけ支えていかななくてはならないと感じております。

海外や県外、県内などいろいろなところから来ていただくためにも、一番は雰囲気づくりだということを言っている方がおられます。それから気さくな明るい対応をしてくれる場所、そして多少小まめなイベントがある場所という話を聞きましたが、そんなこともあって、人と人とのかわり方、これが益田市は苦手なところでもあると聞いたりもしますが、そういうふうな意識と、また誰に聞いても簡単に説明ができるような形が作られれば一番いいなと思っております。

それに対して、学校教育でももう少し深く子どもたちに今の歴史の関係

なども何らかの形で浸透させていかないといけないと感じております。そこら辺もご指導いただいたり、皆さんに教育していただいたりしたらいいと思います。

山本課長

地域活性化計画というところもございまして、特にソフト面についても舟橋委員さんがおっしゃったような要素も盛り込んで展開していきたいと考えておりますので、すぐにといいわけではありませんが、徐々に浸透するよう取り組んでいきたいと思っております。

舟橋委員

ありがとうございます。

もう一点、食の再現というところで、給食でも中世の食をやったということがありましたが、その辺りの結果はどうだったのか教えていただきたいと思います。

長嶺課長

中世の食は、今年の1月に1回実施しております。子どもさんには非常に人気がないというのが現状で、ふだんに比べて食べ残しが多いという実態がありました。特に煮物、汁物というのは、ふだんの食べているものと違いますので、ほとんど手つかずでした。

今回につきましても、話がありましたが、給食でということにはなかなか至りませんでした。その部分については、子どもの食の味覚ですので、そういったところをどうしていくかという課題はあるかと思いますが、結果として非常に人気がなかったというのは実際ありました。

舟橋委員

中世の食と聞いたときに、私自身も味わったことがないのでわかりませんが、どういうものを中世の食としているのか、何をどのように作ったら中世の食に近いのか、中世の食そのものがどのようなものであったのかというのがなかなか伝わっていかない。

柳井教育長

中世の食というのは、「中世の食」再現プロジェクトの委員さん方が、当時、毛利元就に献上した食を再現した内容になっています。

大畑推進監

「中世の食」再現プロジェクトという民間の団体が再現するということで、レプリカをつくったり、おもてなしでやっていることを行政が取り上げたということです。今後ブランド化をしたり、今進んでいるのが、市内の飲食店で中世の食を体験できるという取組を行っているところです。今後の日本遺産では、そういうところをブランド化ができるようにしていこうということで、要はこれからブランディングですので、今からが勝負だろうと思います。

益田の中世の食とはというのが今度は商業ベースでのブランディングと観光でのシンボルになっていくだろうという話ですので、そうすると子どもたちも食べるようになるかもしれませんが、もう少し時間がかかるかもしれません。

舟橋委員

そういう歴史的なことというのは私も多少知っているつもりですが、食というのはどの時代も、少々形が違い味は違っても、おいしいものはおい

しいと思います。だから、何かが違っていたのではないかと思います。給食の場合というのを聞いて感じたことですが、その何かというのは、だしなどいろいろなものがあると思いますが、そういうものを見きわめていき、それを広めていくという、それぐらいの事業化もしていかななくては意味がないと思います。それがまだ伝わってこないし、そういう基本となる情報をしっかりと研究して、メニューがあまりよくわからないけれども、何をもって中世の食なのかというところを、形ではなくて、こういうものの味はどのようなものかというところをもう少し研究していただくといいなと思いました。

というのは、7ページの上に、食の再現などの事業化を期待するとありますが、事業化ということは、誰にも受け入れられる味でなくてはいけませんし、そこら辺のところも昔の中世はどうだったのかというのをしっかりと再現していかないといけないということを思いました。そこが中心になれば、益田にも大きな力になってくるのだらうと思って期待しています。

梅津委員

日本遺産の認定おめでとうございます。ニュースで聞きましたときには、尽力された方々の顔が浮かんできて、本当にご苦労さまでしたという思いと、これからだという思いがいたしました。

そのニュースの中で、3年間は国から管理費が出るようなことを言っていたと思いますが、その後はどのような感じで、予算などどのように考えておられるのかというところと、世界遺産でもそうですが、当初何年間はすごく人気があったりしますが、何年か経つとぱっとしないという状況で、また予算的にも難しくなったりするということを聞きますと、コンスタントな人気があってほしいという思いがいたします。そのところをお聞きしたいと思います。

山本課長

文化庁からは、3年間を中心として、特に受け入れ態勢の整備について指導を受けています。ただ、それ以降も、日本遺産だけに限らずに、例えば地域計画なども策定しておりますので、そうした面でのほかの補助制度などもありますので、そういったところを上手に組み合わせながら、最終的には地域の活性化というのが目的となっておりますので、当然、行政の支援等も大事ですが、地域が単独でも続けていける継続性というのがコンセプトとなっておりますので、そうした支援をしつつ、自立できるような形での誘導はしていきたいと考えております。

それと、ある新聞では、あまり取組がなされていないところは再度検討ということも書かれておりましたが、そうならないように取り組んでいきたいと思います。日本遺産に認定され、それが取り消しというのは、絶対あり得ないと思いますので、そうならないためにも調整をしながら努力していきたいと思っています。そのためには、地域の方々のご協力が必要になるかと思っています。

梅津委員
村上委員

ありがとうございます。

日本遺産の認定、本当におめでとうございました。コロナでなかなか明るい話題がない中で、益田市民にとっても明るい話題だったと感じました。

味わうということだったので、食ということと密接に結びついていて、昨年度の給食のことを思い出し、そういう機会がたくさんあればいいなと思っておりましたが、人気がなかったというようなことでもありました。中世の食の素朴さであるとか、それからまた子どもにとってはおやつであるとか、そういったものが例えば家庭科の授業の中とかそういう中で、少し醸し出しながら、まさに味わうというか、何かおもしろみを感じるような授業がそういう中でも少しずつ展開されていけたらいいと感じておりました。

市内の飲食店でもランチやお弁当など、そういったものも検討されているという話を聞き、市民としても期待がとても膨らんでいますが、予約すれば医光寺の庭を見ながらそこでランチが食べられるとか、そういう楽しみが市民の中にも広がっていくようなことになるといいと感じておりました。益田にとって貴重な遺産ですので、それをみんなで大切にしていきたいと思いますか、そういったことができればいいと思います。

あと一点は、3、4年前にあった戦国武将展や歴食JAPANサミットなど、たくさんの方がグラントワに集いましたが、ああいったイベントがグラントワと一緒にあって楽しむ機会が設けられたらいいと思います。

中野委員

まずは、日本遺産の認定ということでおめでとうございます。思い起こしますと、前木原文化財課の課長さんが非常に力を入れられていて、提出資料もかなり分厚いものをつくられたのを記憶しております。2回目の提出ということで、本当にいろいろなご苦労もあったと思いますが、こうして益田市が注目を浴びるということについては非常に喜ばしいことだと思います。

同時に、既に観光協会さん等もタイアップされておられて、マップもできているということで、そういった事前の準備もしっかりされておられて、いろいろな展開をされているところについては非常に高く評価しております。

今後、このことを小学生や中学生のふるさと教育に結びつけることが必要だと考えておりますので、教育という観点から、学ぶということも今後展開としてやっていただきたいと強く思っていますので、よろしくお願いします。

大畑推進監

この機会に日本遺産ということをつめた、子どもたちに短い時間での授業の中のパターンを幾つかつくれないかというところを社会科部会に相談しておりますので、できれば来年度に向けてそういう整備をして、丸々1時間授業は難しいですが、少しの時間を使いながら、それぞれの学年に応

じて、日本遺産とは、それから益田の中世について学ぶ機会ができるように投げかけをしているところです。また今後詰めていきたいなと思っております。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

○報第23号 工事請負契約の締結について

柳井教育長

それでは続きまして、報第23号工事請負契約の締結について事務局よりお願いします。

長嶺課長

中西小学校校舎外改築、建築の工事についての落札業者が決定しましたので報告いたします。入札につきましては、6月23日に行いまして、仮契約を結ばせていただきました。本契約を締結するのに、議会の議決が要りますので、25日の議会最終日に議会の議決をいただいて本契約になりました。

契約金額につきましては4億9,280万円、落札率は予定価格に対して99.13%という状況でした。

契約の相手方については、徳栄建設、日新建設、大栄建設、この3社の特別共同企業体になり、代表は、徳栄建設が担っていただくということです。中西小学校では、現在造成工事を行っておりますが、今後、並行して基礎工事を始めていきます。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

○報第24号 学校給食における食中毒防止強化期間の取組について

柳井教育長

それでは続きまして、報第24号学校給食における食中毒防止強化期間の取組について事務局よりお願いします。

長嶺課長

この取組は、夏季食中毒防止強化期間の実施要綱というものを定めて取組を進めております。6月17日から7月31日までの期間を強化期間として取り組んでいきます。

教育委員会として、書かれてあります3点について徹底して取り組んでいきます。また、調理委託業者、クッキングフーズであったり、美都であればエイトさんについては、衛生管理の徹底、身体、衣服等の清潔保持という部分を、従来も行っておりますが、再度、取組を強化していくこととします。次に、学校給食会では、給食だより特集号などの配付について取り組んでいきます。それから、小学校、中学校については、今現在、コロナの関係で常に消毒はしていただいておりますが、一方で食中毒という部分

を意識した上でいろいろ取り組んでいっていただくこととしています。

次のページが給食だよりの特集号として組ませていただいているものです。

なお、明日ですが、各学校給食センターにつきましては私と担当の係長、それから美都につきましては担当の課長が朝の食材の検品の際から立ち会って、最終的に片づけまで場内で確認をさせていただくことになっております。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

＝全員了承＝

○報第25号 令和2年度「益田市の教育の概要」について

柳井教育長 それでは続きまして、報第25号令和2年度「益田市の教育の概要」について事務局よりお願いします。

長嶺課長 別冊で令和2年度「益田市の教育の概要」という冊子を配付しております。中身につきましては、益田市としてのいろいろな取組、教育大綱の紹介、それから2ページには、3月議会で教育長が議場で述べられた教育行政の取組方針を載せております。

資料編では、この4月1日現在の学校の様子、教育委員会の状況というものを記載させていただいております。あくまでこれはデータという部分ですので、またご一読いただいて、業務の参考にさせていただきたいと思います。

舟橋委員 30ページについて、子ども・若者支援センターの利用者等が増えていると感じました。こういったセンターがあってよかったということも思いながら、さらに一步でも子どもたちが自立していけるようにお願いしたいと思います。年齢が高い方もおられるとお聞きしておりますが、年齢にかかわらず、その人たちがひとりになっても安心という気持ちが持てるようになればいいという気持ちもしますが、社会へ出て少しでも自分が役立っていると感じられるような取組になっていけばいいと思っております。

この状況報告の中には、実人数というのもしっかりと書いてあります。ところが、この実人数というのは、多くの方が利用している人数がわかるわけで、延べ数っていうのは利用者、つまりは対応している支援者がそれだけの人にかかわってきたということですが実人数がないデータのところもありますので、できれば実人数は必ず入れておくこと、そしてより多くの方に理解してもらいながら事業をしていただくということが必要だと思っております。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

＝全員了承＝

○報第26号 第541回益田市議会定例会一般質問について

柳井教育長 それでは続きまして、報第26号第541回益田市議会定例会一般質問について事務局よりお願いします。

野村部長 今回は12名の議員さんから一般質問がございました。うち教育委員会関係でお答えしましたのが資料に載せております3名の議員さんというところでございます。

質問の順にご説明いたします。

まず、寺井良徳議員さんです。大きく更生保護についてと今後の水銀灯の対応について、2点ご質問がございました。

更生保護につきましては、再犯防止推進計画策定についてという流れの中で、教育委員会との連携についてお聞きになりました。大畑推進監から、先ほど話題に出ました子ども・若者支援センターとの関わりを例にしまして、若者が自立できるよう活動をしているというところをご説明したところでございます。また、今後とも保護司さんとの連携を一層進めてまいりたいとお話しさせていただいております。

そして、水銀灯についてですが、これは水銀灯を含めましてLED化について大きく聞かれております。今年度遂行する予定のある事業についてという内容でございました。これについては、今年度、小中学校の照明のLED化に取り組むよう計画しておりますので、その旨をご説明したところでございます。

それから、お二人目が賀満成議員です。コロナ禍にありまして、それにあたっての市の対応についてというところで、大きく市内経済等の現状と課題という中で教育への影響はどのようなであったかというところを問われました。

学校への感染予防対策への支援、指導について問うというところにつきましては、備蓄マスクを配布したというところと、消毒用製剤をクラス分ほど配布したというところをお話ししまして、今後とも予防対策を徹底してまいりたいという話をさせていただきました。

そして、授業時間数確保対策と学校の行事、地域との連携等の状況はどうであったかという問いに対しましては、この場でもお話ししましたように、夏季休業を8月1日から8月24日とし、夏休みを短縮して勉強するというところを決めましたので、その旨をお話ししたところです。合計12日を確保しております。今年度に入りまして実質10日間を休校しております。そして、3月からの未学習分を含めまして、その12日で対応してまいりたいという話をしております。

学校行事については、残念ながら修学旅行等が実施できない状況となっております。地域活動も同様でございます。今後の状況をよく注視しまして、可能なものから実施してまいりたいという話をしております。

そして、2学期制を導入した学校へ影響があったかという問いでございましたが、結果として、2学期制を導入した学校に対して大きい影響はございませんでした。理由としましては、2学期制を導入する際に学校行事や校内での時間数などをよく精選して取り組むということを念頭に置かれて各学校長がカリキュラムを組んでおられましたので、こういったことが幸いしまして、コロナ禍にあっても対応できたというところをお話しさせていただきました。

そして、学校に行く意義が問われた面もあるが、どのように捉えているかという質問では、学校にも教育長を初め指導主事等が聞き取りに参っております。状況確認をする中で、不安を抱えながらも子どもたちは家庭においてしっかりと教員の助言をもとに対応してまいったことは大変良いことであったと思っております。しかしながら、学校に行く喜びというのは、そういったものにはかえられないものがあるというところでございます。先生方と話すことによって生まれる信頼感、そして友達と一緒に生活することで得られる一体感というものは、家庭では得られません。そういったものが学校があることの価値ではないかというお話をしております。

一方で、今後第2波、第3波と起こることもあり得るわけでございます。こういったことのためにタブレットの配備を検討してまいりたいということを最後にお話しました。

3人目、永見おしえ議員さんです。子どもの教育環境についてというところの問いでございました。

臨時休業が明けた子どもの状況はどうかというところでございます。大賀議員さんのところでも申し上げましたが、最初やや子どもたちは声も小さくて元気がない、不安な様子で5月11日を迎えました。しかしながら、友達とかかわる中で少しずつ元気を戻してきたというところでございます。感染回避等々で休んだ児童生徒もございましたが、少しずつ日常は戻りつつあるというところをお話ししたところです。

そして、学校における新しい生活様式についての問いもございました。3密の回避、身体的距離の確保、マスク、手洗い、こういったことに重点的に取り組んでいる。また、学校においては、床に足跡マークのステップの位置を明示して、しっかり子どもたちが距離をとって動けるような工夫もしておるというところです。学校によっては、大人数での集会を持ちにくい状況がございますので、オンラインで学校集会をするというような状況も聞いているところがございます。小中学校校長会において学校の新しい生活様式等も十分周知を行っているというところがございます。

18ページに移りまして、GIGAスクールのことを問われました。

現在の台数の状況はどうかというところで、今は小学校で319台、中学校で254台を配備しているというところを答えております。

そして、GIGAスクールは取り組みますかというところですか。そもそも、国は、5年間で1人1台のタブレットを整備してくださいという方向性を持っておりましたが、このコロナ禍の中でそれを全て前倒して今年度で整備すると国は考えています。そして、そのための補助もつけているというところでございます。

益田市としましては、ICT機器の活用は大変重要だと認識しております。国の有利な財源の活用を視野に入れて、なおかつ将来的な負担も当然ございますので、そういったことも考慮し、ただいま検討していますというお答えにしております。現在検討を進めておりまして、情報として皆さんもお聞きされていると思いますが、県内19市町がこれやる方向に進んでいるというところでございます。先般の総合教育会議でもお示ししましたように、今、益田市としては、ひとが育つまち益田に向けてICTを活用するというところを打ち出しておりますので、それに向けた動きを進めているというところでございます。以上です。

中野委員

第2回の益田市総合教育会議でもありましたGIGAスクール構想のことですが、私は、小学校の学校評議員もやっているものですから、実情などのお話も聞いたりしております。タブレットが導入されて、オンラインに向けた取組というのは実際できるようになっているようですが、インターネット回線のパイプが非常に細いということで、実質動きのあることをしようと思ったら負荷がかかっているということなので、タブレットだけでなく、回線、パイプを太くすることも同時に考えていく必要があるのではないかと考えておりますが、そのあたりは何か検討されていますか。今後そういったことも見直しを図りながら進めていくのか、何かあるようでしたらお聞かせいただきたいと思います。

田原課長

10年ぐらい前に各学校の回線をひとまるビジョンの線を使いながらやっていくことで経費を抑えるというところを前提に考えてきていたところですか。そういった中で、現在コロナ禍の中で動画のやりとりというものが格段に増えていたというところで、現在の回線の問題が出てきていると考えております。

各学校において動画を使用することで、実は教育委員会の事務でもネットが繋がりにくいということがあったり、行政もひとまるの回線を使っておりますので、その中で動きが悪いという影響が出てきている状況です。

そういった中で、まずは応急処置という形ではありますけれども、光回線が通っているところが、益田地区、高津地区、吉田地区、それから豊川小学校のところまでは光回線が来ておりますので、なるべく早目に光

回線への切りかえを検討しております。それをする事でひとまろの回線を使う学校が減りますので、大きい学校が光回線のほうに逃げる形ができますので、それで対応していきたいと考えております。

機器は導入するが使えないということになってはいけませんので、まずはそこから対応していきたいと思っております。ありがとうございます。

野村部長

つけ加えますと、今、校内の状況だけでは解決できない問題は既に起きています。というのは、益田市の中の通信環境の問題です。そういったところもございますので、これは情報政策を主管する政策企画局とそういった現状を出し合いながら進めていかなくてはいけないという共通理解は持っております。

ただし、市内の通信環境を整備するには途方もないお金がかかる話ですので、どういったところからどのように対応していくのか、そして国の有利な財源はどういったものがあるのかというところを少しずつ明らかにしながら対応していかなくてはいけないという状況にございます。

一足飛びに良い状況になるとは申し上げられないところではあります。田原課長が申しましたように、光回線に直接つなぐという方向で対応を考えているところではございます。

中野委員

大畑推進監

ありがとうございます。

単純に言うと、益田はひとまろを使っております。光ファイバーというのがあって、全ての家庭に通じています。光にすればいくらかでも通るように思えますが、益田の場合には、要するにその中で行政で使うデータ、学校で使うデータ、ひとまろビジョンを流すといったようなデータをここで整備をしながら、一定量ずつ、理論上は1つの管の中を3つの管が通っているような形で整備しております。これが100メガという量しか流れない、要するに小さい水道管が3つ通っているような形になっている。ここのところの整備を変えることは、大体億単位かかると言われております。60億円かけてつくった光ファイバー網のパイプの中身をどうするかというのが一番大きな課題であるということです。それを整備するのを待っていたらGIGAスクールができませんので、当面、大人数のところはNTTの光ファイバーにじかにつなげていくしかないというのが現状の分析です。

いずれは益田市の大事な光ファイバーのインフラというものをさらによくするためにどう計画的にお金をかけていくかというのが、益田市としての次の課題で、その課題が解決すると、安く学校も通信環境がよくなるというところに向かうというところですので、今はその過渡期ですので、少し工夫しないといけない状態です。完全なる満足はまだまだ、市全体の環境整備の後に来ると思っておりますので、いろいろなご意

見を聞かれましたら、事務局にお知らせいただきたいと思いますので、
よろしくをお願いします。

中野委員

もう一点ですが、今、世の中で5Gという話があります。もしかすると無線LANでそういったサービスも今後出てくる可能性もあるのではないかという思いもありまして、かなり高速というふうに理解をしますが、そのあたりも少し視野に入れながら検討も進めていかれるといいのではないかと思いますので、一言つけ加えさせていただきます。

柳井教育長

ありがとうございました。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

○報第27号 令和2年度益田市一般会計6月補正予算について

柳井教育長

それでは続きまして、報第27号令和2年度益田市一般会計6月補正予算について事務局よりお願いします。

森脇参事

それでは、私のほうから20ページの小規模校合同学習実施事業費について説明させていただきます。

最初に、概要だけ少し説明させてください。益田市は今15校の小学校となっておりますのが、そのうち6校が全校20人以下の複式学級を持った学校となっております。今回、ここにありますが、地方創生応援税制寄附金を活用いたしまして、100万円の予算規模でこの6つの小学校に焦点を当てて、ふだんなかなか味わえない集団での教育の部分の支援していきたいと考えております。

具体的には3つほど柱を立てておりまして、1つは、各学校が江津の少年自然の家に宿泊体験に例年行っていますが、2校で行ったり、あるいは単独で行ったりというのが現状でした。これを、小規模校6校、具体的には真砂小学校、豊川小学校、桂平小学校、匹見小学校、東仙道小学校、都茂小学校、この6校で合同に行って、そこで少し大きな集団で変わった形の学びをしっかりと体験させたいと考えております。

あわせてまして、人数の多い競技、例えばサッカーなど、そういう体験はなかなか自校ではできませんので、そういう人数の多い競技の正式なルールにのっとった体験等を経験させたいということで、その交流のための旅費を計上しております。

それから、日常的に他の小学校とテレビ会議ができるような仕組みがあると、合同で集まって何かをやる以外に、新しい学びがあったり、そこで新しい出会いがあったりということにつながるのではないかと考えています。テレビ会議用のタブレットやマイク等を備えていきたいと考えています。

これらを備えますと、先ほど申しました自然の家での体験の事前の係ご

との打ち合わせや、今まででしたら合同で行く場合はどこかに集まって、そこへ行く旅費も必要になったり時間も必要になったりするわけですが、例えば打ち合わせの時間をテレビ会議で行うというようなことも可能になります。そして何よりも、最終的には合同で授業をするのも一つの方向性かと思いますが、いきなりそこを求めるのではなくて、例えば昼休みにお互いにテレビ会議で意見交換をするとか、あるいは合同で同じ時間、体育の時間で縄跳びを見せ合う、あるいは時間を競い合うとか、距離を感じさせないそういう取組にもつながっていくのではないかなとも思っております。

本年度は先ほど申しました6校を対象にしながらやっていきたいと考えておりますが、計画ではこの事業につきましては3年間ということで、今後6校から少しずつ対象の学校を広げていったり、あるいは中学校区で合同学習をどんどん行ったりすることも今後あると、小中の連携にもつながっていくのではないかなと思います。まずは、今年度初めての取組ではありますが、これを充実させまして、来年度以降につなげていきたいと考えております。以上です。

田原課長

続きまして、学校図書館活用教育事業費の小学校費分それから中学校費分についてご説明させていただきます。

この事業につきましては、今年度も引き続き県の委託金を活用して学校図書館司書を配置している学校のうち、今年度につきましては中西小学校、それから昨年度に引き続き益田中学校を実施校といたしまして学校図書館活用教育の実践事業を行っていかうとするものです。学校図書館自体が現在、読書センターですとか学習センター、情報センターとしての機能を持っていることから、その機能の充実を図るとともに、市内の各小中学校での学校図書館機能の活用をもっと充実させることを目的に行っていくものです。

この事業につきましては、小学校、中学校ともそれぞれ30万円ずつということにはなっておりますけども、県の10分の10事業として補正予算を計上いたしました。

大畑推進監

続きまして、23ページ、24ページ、25ページですが、教育の魅力化ということで県が進めており、益田市も一緒に取り組んでおりますが、昨年3月に地方創生推進交付金ということで教育の魅力化であったり学校を核とした教育の推進についての国の採択を受けました。よって、該当する事業につきましては、国の補助金を受けることとなりましたので、当初一般財源で充てていました財源を国も補助金に振り替えたものでございます。以上です。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

＝全員了承＝

柳井教育長 それでは、次回は7月27日の13時30分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 10時46分＝